



「永遠の輝く星となって プロレタリアートの胸に輝く君よ」

没後91年記念のつどい

「小樽多喜二祭」開催される

(壺井繁治・詞)

6月1日小樽市民センタ

ー・マリンホールにおいて没後91年記念のつどい「多喜二祭」が小樽多喜二祭実行委員会の主催で開催され、市民による構成劇「2月20日―小林多喜二のお母さんへ」と記念講演「北海道の「心臓」と「民の力」―多喜二の見た小樽―」(講師・高野宏康氏)が行われました。いずれも悪法・治安維持法によって虐殺され、むざむざと人生を壊された多喜二の悔しさ、家族の無念さを語り継がれる内容であり、刻々と戦争の道を歩もうとしている今だからこそ、多喜二が生きた証しが再現され、「暗黒政治を許さない」決意を心に深く刻まれる機会となりました。また、翌日2日には「墓



(601号付録)

北海道版 No.499

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
北海道本部

編集発行人 歌代 英蔵

〒065-0018 札幌市東区北18条
東15丁目3-6ブランワールF101号
電話 011 (374) 8280
FAX 011 (374) 8281
郵便振替・02740-7-24209

前祭」が奥沢墓地の小林家墓石前にて、午後からはオリエンテリング「多喜二と小樽」が行われ、2日間にわたる多彩な催しの「多喜二祭」でした。

小林多喜二は、プロレタリアート作家として『蟹工船』など多くの作品を残していますが、

作品を貫くものは、常に働く人々の幸せを願い、民衆がもつ社会の矛盾、非合理性への怒りをともにし、変革への道筋を照らすものであったといえます。そこには、愛する小樽とその街に暮らす人々への「愛」があったのでしたのです。

冬が近くなると

ぼくはそのなつかしい国のことを考えて

深い感動に捉えられている

そこには運河と倉庫と税関と桟橋がある

そこでは 人は重く苦しい空の下を

どれも背をまげて歩いていく

ぼくが何処を歩いていようがどの人をも知っている

赤い断層を処々に見せている

階段のように山にせり上がっている街を

ぼくは

どんなに愛しているか分からない

〈小林多喜二文学碑文より〉

国賠同盟 第41回全国大会終る

全国大会参加報告

6月19日、20日の2日間にわたって第41回全国大会が、東京都内「全労連会館」で開催されました。2年に一度開催される全国大会、来賓に日本共産党山添拓参議院議員、自由法曹団山添健之弁護士が出席し連帯の挨拶をしました。

全県本部から112名の代議員と評議員11名、常任理事等が出席する中、吉田会長、田中事務局長から今日の情勢や前大会からの運動の到達点が報告されました。引き続き大会議案に対する代議員からの積極的な発言と活発な議論が行われ、活動報告・運動方針・中央役員等を探択し2日間の日程を終えました。（詳しい内容については「不屈」中央版で報告予定です）

北海道本部からは、歌代会長、畠山副会長、増子札幌支部長、佐藤苫小牧支部役員が代議員として、また本間副会長と横山事務局長は、中央常任委員として出席しました。4月から6月まで設定された全国大会成功と2万人同盟建設をめざす「特別期間」に北海道本部も連帯し、各支部挙げて大きな運動を展開し目標の13000名同盟拡大を達成し全国大会に臨みました。

道本部会長 歌代 英蔵

全国大会は、全労連会館で行われました。感想を含めて報告します。

前大会の時は会長になったばかりだったので、自分が発言するだけで精一杯でした。今回は多少冷静に客観的に発言を聞くことができ、今後の北海道の運動に参考になる多くのことが収穫されたような気がします。

会長の吉田万三氏は、情勢の特徴で、自公政権の支持率は低迷し続けてはいるが、その一方で戦争国家への道を着々と進めていきます。「立憲共産党」という攻撃の

本質は、権力の危機感の表れであることと強調しておりました。会員の拡大するためには情勢の議論が必要ですが、常に情勢を正確につかむことが大事だと思いました。

事務局長の田中幹夫氏は、同盟の中心的活動である請願署名がコロナ禍で始まった低空飛行が今年も続いていて11万4000筆であったこと。署名に取り組んでいる会員は、20〜30%前後ではないかということ、全会員が署名運動に参加するためには「同盟を語る」ことが求められること、2万人の拡大目標には、約30000名足りなかったことが報告されました。

北海道が24年ぶりに13000名を超過達成しただけに残念でした。会員拡大県が16県、減少県が30県でした。減少県をどうするのか、今後の大きな課題の一つだと感じました。各県で支部建設を進めること。女性部を作ることも強調されました。

国賠署名の目標と達成状況

2024年7月1日現在

支部名	団体署名		個人署名		
	目標数	到達数	目標数	到達数	到達率
札幌	400	0	5000	153	3.0%
江別	20	0	1000	0	0.0%
小樽後志	50	1	750	74	9.8%
道南	100	0	1500	70	4.6%
室蘭	30	0	500	0	0.0%
道北	300	0	3000	0	0.0%
十勝	100	0	2000	0	0.0%
釧路	150	0	1500	45	3.0%
南空知	50	0	1500	45	3.0%
苫小牧	80	1	2000	75	3.7%
北空知	60	0	1500	0	0.0%
北見	70	0	2500	10	0.4%
道本部	50	0	1000	0	0.0%
合計	1460	2	23750	472	1.9%

した。19日の渡辺治氏の講演は、勇気と展望を与える素晴らしい内容でした。簡単に言えば「戦後79年に渡る私たちの闘いが戦争への道を阻んできたことに確信を持つ」というものでした。この講演内容を学習し、どう全員のものにしていくのか、どう世論の多数派にします。大会で学んだことを北海道でも一つでも多く実践を通じて前に進めたいと決意して帰って来ました。

全国大会発言要旨

北海道本部副会長 畠山 忠弘

同盟北海道の1300名達成について報告します。

第一は北海道同盟活動の自己分析です。昨年6月21日、北海道常任幹事会が開かれました。その時の現勢は1158名で、ここ何十年間にわたって1300の現勢回復を誓いあってきました。しかし、その都度克服ができなかった。た。本格的な総括や克服の方針もあいまいでした。このままだと北海道の同盟は、高齢化と施設入所、死亡などによる退会で将来がなくなってしまう危険がありました。

そればかりでなく、もう一つの危険は支配権力の暴走です。大軍拡へとやりたい放題の悪政です。これを何とかしなければならぬ。

そこで出されたのが、今大会まで「残り142名を拡大し、1300名を突破することが最大の反撃でないか」と決議したのです。しかし、この決議は何回もしている。しっかりとやるためには「期限と目標をはっきりさせよう。この

6月から9月の北海道大会までに35人、そこからさらに年末まで35人、今年1月から本日の全国大会まで70名、合計140名を拡大すること」を決議したのです。こうして拡大運動が始まったのがちょうど1年前でした。

3ヶ月後に北海道大会を控え、期日と目標が明確になったので、各支部の活動は活発になりました。こうして挑戦した第一関門の結果は±44人の拡大を成し遂げて北海道大会を迎えました。大会は大いに盛り上がりました。

北海道大会が成功し第二の関門である年末までの拡大も±53名とここまでは順調な拡大に見えましたが、今年に入ってから4月までは±1名と全く振るいません。拡大の停滞とともに多くの退会者がたのでした。

停滞は「活動家の周辺にあたりつくした、他の分野の活動家にくら言っても耳をかしてくれない」と言うのが主な理由でした。よく聞いてみると「これほど忙しく活動しているのに更になにをやるのか」逆に説得されるほどでした。そんなに多忙な人に拡

大を言うのは無理がある。考えた末「そうだと対象者を広げることだ」

この3年あまり取り組んできた千代子映画の鑑賞者は約7000人近くいる。そこに当ろうとなったのでした。思えばわたくしも、伊藤千代子の最後の手紙発見から22年、映画に取り組みだしてから4年が過ぎ、50回にわたって全道で学習会を行ってきました。この結び付きにあたつていこう。そのためには、上映実行委員会と同盟の協同で学習会をやろう。田中中央事務局長と顧問の藤田廣登氏に來ていただき情勢と映画の上映、同盟拡大について学習会をやろうとなつて、4月6、7日札幌で約1000名を集めて行われました。両講師の熱弁と各地から参加した感動的な報告に胸をゆさぶられました。現在の情勢と同盟活動の意義、多様なむすびつきをつくりだした映画運動に深い確信を学んだのです。

同時に問題とされたのが、同盟道本部自身の本気度でした。底をついた議論を行って、道本部に「大会成功拡大推進本部」を設置し体制上も見える化を図りました。歌

代本部長、横山事務局長、推進ニュースは河野事務局次長などの体制と全役員が推進本部に結集して促進にあたりました。

推進ニュースは4月以降20号を発行しすぐれた教訓を普及しました。広大な北海道ではこのニュースが極めて有効でした、この結果拡大は昨年の6月以来この一年間で239人拡大し、退会者87人を差し引いて現在1310人に到達したのです。北海道でのこの到達は24年ぶりの事だそうです。結論は中央本部を含め、各級組織の長の決意、底をついた討議と実践は必ず同盟の変化を生み出すにはおきません。全国が立ち上がれば2万人の目標はきつと達成できる確信をもたらしたいと思います。以上で私の発言を終わります。

道本部副会長 本間 昭一

北海道が24年ぶりに最高時現勢を回復突破した取り組みについて、昨日北海道の2名の代議員が発言しましたが、私も補足的に発言します。

この成果は、昨年6月の全国理

事会が契機でした。今年6月14日迄のこの一年間の会員拡大数はほぼ220名、4月はじまった「拡大月間」から2ヶ月半近くで100名余でした。同時に死亡・転居、その他で68名の退会があり152名の実増でした。道内には12支部ありますが、死亡、病氣などで支部体制が弱まり、力を充分発揮できず苦勞している支部が3割ほどあります。道役員会は、こうした支部への直接的援助、電話や手紙などでの激励を強める中、全支部が会員を増やしたことは重要なことでした。

また、「月間」は当然ながら会員拡大だけではなく当面する国会請願の成功、署名目標の達成めざす活動も同時追求しました。この数年のコロナ禍のなかで毎年署名数を後退、この2年間で1万筆を割る状況でしたが、今年は目標達成支部2つ、2000筆以上集めた3つの支部含め全支部と協力団体の奮闘で、全道的に1万1700筆越える個人・団体署名を集約し、菱谷良一さんはじめ9名の代表団を送ることができました。

この署名活動の推進で「5筆10

筆運動」に全会員の参加を追求し、従来2から3割の署名活動参加会員を60%近くまで引き上げた支部もうまれ、そこでは全会員への訪問・手紙・電話など駆使して活動参加と行動を訴え抜いています。

こうした「月間」の取り組みを推進するため道本部は、「推進体制」をつくり、「道活動推進ニュース」を20号まで発行し、全道各地の拡大活動を紹介・交流したところや、道・支部幹部が活動の先頭にたち成果をつくり出し激励を強めたことなどはじめ、この間の活動の経験や教訓をみんなで出し合い学び合い、北海道の新しい到達点に立つて新たな前進を決意しています。

全国大会に参加して

苫小牧支部 佐藤 昭子

憲法違反の「戦争する国づくり」が加速度的に進み「新しい戦前」といえる危険な状況が作りだされています。

「ふたたび戦争と暗黒政治を許さない」を目標に運動を継続して

きた同盟。全国各地で同盟員も高齢化するなかで、未来を信じがばっている姿に感動。苫小牧の図書館で発見された伊藤千代子最後の手紙が映画化された「わが青春つきのとも」が感動を呼び、同盟の力になっていくとの報告をうれしく聞きました。歴史を逆戻りさせず、平和な日本を手渡すために同盟の存在の重要性を再確認出来た大会でした。

情報コーナー

☆顕彰活動

「本庄陸男没後85年 墓前祭」

7月22日(月)13時〜紋別市上渚滑西

辰寺

〈連絡先 国賠同盟北見支部
090-6267-4840
(佐々木さん)〉

☆支部活動

①札幌支部総会と講演会

7月21日(日)13時〜支部総会、15時

講演会『治安維持法』10

札幌支部長 増子 捷二

1,300名を超過達成!の報告(歌代道本部長、畠山副会長)は、全国を励ますものでしたが、頑張っても進まない、或いはこの間会員を減らした県もあったようです。なかなかうまくいかない所や困難さの具体的な要因についても率直に光を当てる事が大切だと感じました(特に将来どう若い人を迎えるのか)。

0年を前に現代への警笛」

講師/荻野富士夫さん

会場/北海道高教組センター

4階

参加費/700円

〈連絡先 国賠同盟札幌支部

治安維持法100年を前に
現代への警笛

講演 荻野富士夫さん

24年7月21日(日)15~17時

会場 北海道高教組センター4階大会室 大蔵12

参加費 700円

連絡先 国賠同盟札幌支部

090-6267-4840

佐々木さん

自由に表現できる社会を

「生活図画事件」最後の生き証人・菱谷良一さん

NHKテレビ「おはよう北海道土曜プラス」特集で放映される

7月6日(土)7時30分～8時の放映中10分間、菱谷良一さんの特集番組がNHK旭川局の制作で放映されました。冒頭で、5月15日、衆議院第一議員会館で行われた国賠同盟国会請願の場において、「治安維持法の呪縛にあった被害者の一人として、また国賠同盟の一人として要求の声をあげたい」と国会内でのスピーチが紹介されました。続いて1941年旭川市で起きた治安維持法による弾圧事件、「生活図画事件」の背景や罪のない菱谷さん等の逮捕状況、獄中の実態を本人の語りと残された資料などを交えながら、如何に不当な逮捕であったか、そして現在に至るまで国の謝罪は皆無状態であること、を鮮明に映し出されました。特に菱谷さんが記した『獄中日記』が語る「私は、孤独と静寂の中に追いやられた：寒い、絶望の時間が一年以上続いた：」では怒

り悔しさがにじみ出ていて見るものの胸をつきました。

「こんなじいさんでも話ができるそういうチャンスを与えてくれる。私、なかなか明日、あさつてに死ねないもんな、もうちょっと頑張りたいもんね。この波にのつてもうちよつとシヤバで意地悪したい：」と語る菱谷さん。チャタリングで相変わらずのユーモアたっぷりの表情が画面から伝わりました。治安維持法の現代版「共謀罪法」を廃止させなければならぬ、すばらしい特集番組でした。



7月6日NHKテレビより

(文責 河野)

090-6692-0694

(増子さん)

※詳しくはチラシを参照ください。

さい。

②南空知支部総会と講演会

8月3日(土)10時～総会・講演「集産党事件」講師/宮田凡元道本会長

会場/地区事務所2階

〈連絡先〉0126-24-1855 (千石さん)

☆他団体の活動

「わが青春つきるとも」映画上映

8月3日(土)10時～14時

会場/白石区民ホール 鑑賞券700円

〈連絡先〉上映運動北海道実行委員会 090-6692-0694 (増子さん)

「原爆死没者北海道追悼会」

8月6日(火)13時～15時

会場/ホテル「ノースステイ」2階 金柔

主催/北海道被爆者協会・北海道追悼会実行委員会

〈問合せ〉011-866-9545 北海道ノーマ・ヒバクシャ会館

7・25「女性の権利デー」

ワークシヨップ

7月25日(木)14時から 会場/エルプラザ4階中研修室

講師/出口 憲次氏(道労連副議長)「誰もが働きやすい職場・社会とはどんなもの?」

ジェンダーギャップ指数118位からみえてくるもの」

主催/北海道平和婦人会

〈連絡先〉011-241-0956

2024第13回「平和パネル展」

7月20日(土)10時30分～17時

広島の高校生が被爆者とともに描いた「原爆の絵」展示

会場/札幌駅前通地下歩行空間「憩の空間」主催/新日本婦人の会中央支部

〈連絡先〉011-251-0426

北の
語り部

「治安維持法」弾圧事件との

出会いと調査活動(第2回)

宮田 汎

北海道・樺太の

弾圧体験の著書刊行

1976年2月から12月にかけて「ほっかい新報」紙が「治安維持法を告発」私の体験から」を連載し、24人の犠牲者の弾圧体験を紹介しました。それによって「治安維持法」の極悪非道の実態が多

くの人の知るところとなりました。それらに、小林多喜二「一九二八年三月十五日」からの抜粋も加え、北海道・樺太の弾圧事件70件の年表を加えて1冊にまとめたのが「夜明けをめざした人びと」治安維持法、北からの告発」(2006年1月刊、2016年10月改訂増補版刊、佐々木武志・宮田汎編集)でした。

また札幌郷土を掘る会は「戦争に反対した人たちがいた」弾圧に抗した青春」、『かたむいた天秤』を刊行し、治安維持法による弾圧事件にも多くのページを割きました。

顕彰活動の進展は、犠牲者本人が自らペンを取り、著書を出版することによって進みました。本間キクエ「交換台」、荒井英二「燃ゆる山々」『怒りのうた』『赤い兵隊』西館仁「雪は熱し真紅の旗」、中川一男「一筋の道に生きて」などの著書です。

そのころ、同盟道本部は、1942年の北海道長官事務引継ぎ書の中から道警察部作成の「弾圧事件一覧表」などを入手して、公表しました。また、弾圧を逃れて樺太に渡った関係者からの、宮田による聞き取りや道立図書館所収の「樺太新聞」などの閲覧によって、樺太における弾圧事件にも調査が及びました。

生活綴方から

生活図画事件への出会い

私が、「治安維持法」弾圧に関心を持った頃、生活綴方事件については、存命の犠牲者や関係者が多かったこともあって、多くの著書や研究書が出版されていました。

高田富興「綴方聯盟事件」(1958年)、平澤是廣「弾圧」北海道綴方教育連盟事件」(199

0年)、三宅信一「戦雲ただよう根釧原野」生活綴方教師の受難」(2009年)、上田貞夫「綴方聯盟事件と旭川師範学校」(2010年)、佐竹直子「獄中メモは問う」(2014年)などがそれです。

その頃、出会ったのが、旭川教育大学の小田切正先生でした。先生の著書「戦時下北方美術教育運動」(鳩の森書房)を読ましていただき、生活綴方とは別に生活図画という教育運動があったことを知りました。

それは、1932〜40年、旭川師範学校・熊田満佐吾、旭川中学校・上野成之両教師とその教え子たちが実践した美術教育でした。教え子たちに、身の回りの生活を見つめさせ、自らと現実の生活をより良く変革することをめざす絵の教育でした。

しかし戦争を推し進める国家権力はこうした教育を許さず、41年、綴方教育連盟への弾圧に次いでこれらの教師や教え子たちを弾圧、治安維持法目的遂行罪として熊田を3年半、上野、本間勝四郎を2年半の実刑に12人を執行猶予付の有罪としました。「生活綴方」と並んで戦前の民主教育の一つの峰

ともいえる生活図画教育を弾圧した80日後、日本は真珠湾とマレー半島に攻撃をしかけました。これが「生活図画事件」といわれるものです。

また、同盟札幌支部事務局長でもあり、「不屈」札幌支部版の編集者でもあった渡邊貫三氏は1994年から足かけ8年、47人の犠牲者に聞き取り調査をし、「不屈」札幌支部版に連載してその後、1冊にまとめた「この人に聞く」朔風に抗して生きた48人」253頁の大著があります。私もほんのわずかですが、渡邊さんの聞き取り調査に加えてもらい、聞き取りの作法を教えてもらったことを思い出します。

この著書に登場する治安維持法犠牲者は、全ての方が、当然ですが、もうお亡くなりになっています。それだけに、大変貴重な書籍であり、証言集です。

なお、「夜明けをめざした人びと」の巻末に収録した「北海道における治安維持法下の弾圧事件一覧表」、「証言者関連年表」は、北海道のみならず樺太の事項も詳しく、今後の調査にも役立つと思います。

(次回につづく)